

県P連だより

広島県PTA連合会

陽だまり No.47

しながら準備しました。中でも看板や掲示物を手書きにしたことで、個性的で温かみのある表現ができたと思います。



一方、アトラクションは山県



心からお礼申し上げます。

今回の「やまがた大会」においては、どおり村の協力により場所の選定と講師・弁当が早く決まり、駐車場やスケジュールに余裕を持って取り組むことができました。

会場は体育館であるところから、床面へのシートしき、椅子の設置、音響や照明の仕様の決定から操作の依頼など、多くの準備物が必要でした。そこで綿密な打ち合わせやシミュレーションをしながら準備しました。中でも看板や掲示物を手書きにしたことで、個性的で温かみのある表現ができたと思います。



実行委員長
武本 信秋

大会終了後の片付けも、自ら進んで積極的

第44回広島県PTA研究大会やまがた大会

「上手い！さすが世界遺産！」と感じ、大会の成功を確信しました。

大会報告

「上の子から子へ、また、地域の文化を次世代に継いでいくことを意識して、子ども田楽と大人の田楽、それを繋ぐ高校生の神楽を企画しました。

大会当日はさわやかな秋晴れとなり、県内各地から多くのPTA会員の皆様をお迎えし、盛大に開催されました。

また、己抄呼さんの講演も軽快なトークでの体操により、会場一体となった笑いがあふれ「皆さんの繋がりを」感じました。

開会行事に続いての実践発表では、府中市府中中学校PTA・府中小学校PTA、大竹市立小方小学校PTA・小方中学校PTA、安芸郡府中町学校PTA連絡協議会の特色ある取り組みが紹介されました。

「笑顔のサブライズ」もみなさんの心に感動を与えたと思います。

午後からは「笑う体操」をテーマに、健康アーティストの己抄呼講師による記念講演が行われました。講演が始まると会場は笑い声に包まれ、最後には、参加者の笑顔の写真が映し出されるサブライズがあり、笑顔と感動でいっぱい

大会要項において、一部表記に誤りがあり、関係者の皆様にご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げますとともに、チェック体制や校正の大切さを痛感いたしました。

私にとって、子育てには、親の笑顔がどれだけ大切かを考えさせられるとても貴重な時間となりました。

最後にになりましたが、本大会を開催するにあたり、多くの会員のみなさまや114名の大会運営スタッフのみなさんがたには多大なるご尽力をいただきありがとうございました。

最後になりましたが、大会の企画・運営から片付けまで、ご尽力いただいた山県郡PTA連合会の皆様方に感謝申し上げます。

心からお礼申し上げます。

（広島県P連理事・広報委員 梶田美貴）

平成28年度 広島県PTA研究大会せら大会

年月日 平成28年10月2日(日)
会場 世羅郡世羅町 せら文化センター
スローガン ささえあい つなげ！未来へのたすき

第63回日本PTA全国研究大会 札幌大会報告

8月21日・22日開催 県内各郡市から58人参加

第63回日本PTA全国研究大会が札幌市において開催されました。「ひろがれ子の未来(ゆめ)！つなげ親力！〜今札幌から始まる。これからのPTA」をスローガンに全国から約8000人が参加して議論を深めました。

初日は10分科会に分かれ、学校、家庭教育、地域連携などの基調講演やパネル討議が行われました。

2日目の全体会では、脚本家倉本聡氏の記念講演「あなたは子どもたちの想像力を育てていますか」があり、倉本氏の戦争体験、戦後から今に至るまでの生き様に熱心に聞き入りました。当時の出来事をまるで昨日のことのように淡々と語られる姿が印象に残りました。子どもの頃からの多くの体験が想像力につながり「北の国から」のような数々の感動のドラマを世に送る人になることができたのだと感じました。より多くの体験を子どもたちにさせて自信を持たせることが、人に対してのやさしさや思いやりにもつながるのではないかと思います。

(広島県P連理事・広報委員 上野博士)

第二分科会 ～家庭教育～



第二分科会は、一面の芝生と木々に包まれた美しい自然の中にある「芸術の森」でありました。地元中学生のジャズ演奏がこの雰囲気にとりこまれて心に響きました。

続いて、円山動物園の田中園長の講演は、家庭が教育の原点であるという観点から、動物園での動物の関わりと、家庭での子どもの関わりを比べてお話されました。動物も子どもも親(飼育員)、学校(獣医)、地域(研究員など)が必要であり、学校、地域が関わり合って家庭が成り立っていることや、様々な動物の子育てについての体験談などを聞きました。

動物に触れることを通して、真の温かさ、やさしさ、生命など、とても大切なことを学ばせていただきました。また、子どもを育てていくうえで、学校・地域とどう関わって家庭をつくっていくことの大切さを、改めて認識した貴重な講演でした。

(広島県P連理事・広報委員 山田千絵)

第四分科会 ～広報活動～

今日、広報活動では「伝える側」と「受ける側」の距離が広がり、PTA活動を支える「つながる」という基本姿勢が薄れてきています。私たちPTAが「つながる」ための情報もマンネリ化し、無感動な情報が繰り返されつつある中、広報活動をしていくうえで、課題となる①PTA力をアップする広報活動 ②伝える力をアップする知恵と工夫という二つの視点で討議が行われました。

まず、劇団32口徑の捨てられた犬たちのこころの声を伝えたいという演劇を通して、「演劇」を「広報紙」として観点を立てて鑑賞することにより、広報活動への皆さんのヒントがあり、異分野から学ぶ素晴らしい基調講演でした。その後、実践発表では、広報紙まつりにおいて最優秀賞を受賞された中学校PTA広報部の方々の活動報告、続いてのパネルディスカッションは、魅力発信の極意、読んでもらえる紙面づくりにかけての思いなどの対談が行われ、改めてPTA広報活動の役割と必要性を強く感じた心に残る分科会となりました。

(広島県P連理事・広報委員 中村和美)



“流水”を前に記念撮影

札幌大会あれこれ 報告書より ～PTA活動と子どもとの関わり～

□ 全国大会のように大きな企画が行われることで会員のモチベーションも高まり、改めて自分の属している組織を客観的に見直すチャンスとなります。

□ 大人が一生懸命に楽しく活動している姿は、必ず子どもたちにも良い影響を与えます。二年後には福山市で中国ブロック大会が行われます。良い変化があることを期待しています。

□ 情報モラルの問題は、継続して活動しないと、大人たちはあつという間に取り残される。もはや家庭のみで解決できる問題ではない。あらゆる機関と連携していくことが必要であるが、今回改めて学んだことは「子どもも一緒に考える」取り組みの必要性である。

□ 分科会の中で中学生がパネラーになり、「今、どんなことに悩み、どのような夢に向かっていいのか、社会にどのような期待を持っているのか。」などを直接聞く場面があった。是非とも今後の参考になりたい。

□ 第1分科会のPTA見直し委員会の児童を対象にしたアンケート「親が学校でみんなのために活動している姿を見てどう思うか？」によると、「うれしい」は91%、低学年は「うれしい」が85%、「どちらかといううれしい」は15%、パーセントとなり、全員が肯定的な意見であった。子どもに対して言うてはいけない言葉として「お前には無理だ、できない。失敗する」などの否定的な言葉です。その子の可能性や夢を奪うこととなります。

□ 「失敗したらどうすればいいのか」「夢を実現させるにはどうしたらいいのか。」などを、子どもと一緒に考えて考えるのが親の役目ではないでしょうか。

三行詩コンクール (楽しい子育て) 全国キャンペーン

〜家庭で話そう! 我が家のルール・家族のきずな・命の大切さ〜



平成27年9月16日(水)、県P連事務局に県P連の理事・監事が集い審査を行いました。
 応募総数は、3744点で過去最高となりました。
 審査会では、小・中学生の部から各30点、一般の部から5点を選出しました。また、本年度は、会長特別賞を一点選出しました。
 これらの作品のテーマは、家族の

会話や絆、家族やきょうだい愛、早寝早起き朝ごはんといった生活習慣、家庭環境や家族のルールづくり、命の大切さなど多岐にわたっており、とても難しい審査会でした。
 県教委義務教育指導課のご指導のもと、小・中学校の部も各5点を選出し、一般の部とともに、日本PTA全国協議会へ推薦いたしました。



優秀賞

●小学生の部

庄原市立東小中学校 3年 秋山 修己
 おつかいの ごほうび空から 虹二つ
 竹原市立東野小学校 1年 友岡 陽暎
 きよつのできごと おはなしかい
 ばしよは、みんなではいるおふろだよ。

呉市立内海小学校 3年 木村 朱里
 夜の九時、ふとんの中で手をつなぐ。
 うれしい事も、かなしい事も全部話すとホッとする。
 家ぞくはわたしのおっえんだん。

呉市立昭和中央小学校 3年 小島 美生
 「大丈夫!大丈夫!!」
 転んでも立ち上がれる 母のまほうの言葉

廿日市市立阿品台西小学校 3年 益本 梓帆
 うれしい事もかなしい事も
 話すよ 聞くよ
 いつも いつまでも

会長特別賞

三次市立八次小学校6年 標 智希
 お父さん 飲みすぎ注意
 昨日の記憶 覚えてる?

●中学生の部

江田島市立能美中学校 1年 楠木 望亜
 今日も出た 親バカ母さん ほめまくる
 はずかしいけど ちよつとうれしい
 東広島市立八本松中学校 2年 末永 星花
 ケンカして ゴメンの代わりに 血洗い

北広島町立豊平中学校 3年 山本 桃子
 夏の夜 我が家の会話
 隣・近所に 筒抜けだ!

安芸高田市立甲田中学校 3年 横山 裕
 安のけんか
 本気から いつの間にか 力くらべ

三原市立第五中学校 1年 佐々木 里奈
 参観日
 「来ないで」と思ってるけど実際は、
 母を探しては
 はずかしいし てれくさいけど ありがたい

●一般の部

北広島町立豊平小学校 佐々木 昭典
 電話をしたらメールで返信する長男
 やつと打ったメールを5文字以内で
 返信する次男
 ます、5コール以内でない妻
 平穏な、わが家だ!!

北広島町立豊平小学校 片桐 和代
 いつまでも 一緒に寝たいと思うけど
 そんな思いは 母ばかり
 とんで寝るのも あと少し
 夜中に そっと だきしめる

呉市立下蒲刈中学校 秀川 由香
 「お母さん、いつもありがとう」
 「お母さん、大好き」
 我が家の冷蔵庫は、子どもたちの掲示板
 降り積もる登校道の雪を揺く
 父の足跡 幼き記憶。

庄原市立北和小学校 古家 八千代
 降り積もる登校道の雪を揺く
 父の足跡 幼き記憶。

北広島町立豊平中学校 栗栖 弓子
 「出掛けるよー!」の一言に
 昔は「行く!」
 少し前は「どこ?ん?行く。」
 現在は「行かん!!」
 親離れしていく息子に寂しくもあり、
 嬉しくもあり



ケータイ・スマホを考える

ケータイ・スマホはすでに日常で使用される言葉として認知されているが、今日ではスマホが急激に普及してきた。
 ケータイの問題は、当初は、長時間利用に伴う高額な請求、性犯罪や架空請求の被害に遭うといったものではなかったろうか。
 今日でもそのような問題は残っていないが、スマホの普及が、その多機能さゆえに、ケータイ普及当初には考えられなかった問題を起こさせている。スマホを使用している場合に、※SNSを利用している場合が多いが、そのトラブルを耳にするようになってきた。

中高生の場合に、人気者になりたいという思いが強すぎて、SNSでの不適切な投稿につながることもある。投稿者は軽い気持ちであっても、罪に問われることがある。今やケータイ・スマホは犯罪に巻き込まれる可能性よりも、犯罪を引き起こす可能性のほうが強くなっているのではないか。

また、ケータイ・スマホは大半が、親から子への貸与である。だからこそ、親は子に対し、適切な使用をさせる義務がある。機能が進歩する中で親が学びをすることを怠り、知らず知らずのうちに不適切な使用を見逃してはいないだろうか。これからケータイ・スマホを子どもに持たせる際には、使用方法について約束事を作り使用することはもちろん、成長段階に応じて見直す機会があってもよいと思う。

是非「我が家のルール」を作り、それを親子での会話のきっかけにしてほしい。
 (広島県P連副会長・広報委員長 小川剛司)
 ※SNS・ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略



「道德教育」を身近なものにするために

道德教育パワーアップ
フォーラムに参加して



広島県では、平成14年に「豊かな心を育むひろしま宣言」を育てよう、「心の元氣！」を発信し、県ぐるみで心の教育（道德教育）を推進してきました。また、昨年12月には「広島版『学びの変革』アクションプラン」が策定され、グローバル化する21世紀の社会を生き抜くための新しい教育モデルの構築に向けて動き出しました。道德教育の充実に向けて、今年も県教育委員会主催の「道德教育パワーアップフォーラム」が8月11日に、アステールプラザで開催されました。

フォーラムの内容は、モデル校から「主体的な学びを促す道德」「問題解決的な道德」などを主題にした実践発表の後、國學院大学杉田洋教授の講演がありました。今回の研修を通して気付いたことは、「人は人によって磨かれ人になる」「子どもたちを磨く我々大人が人としての姿勢を見せ続けることが大切である」と感じました。そのためには私たちも、道德教育をもう一度学ぶ必要があると思いました。子どもたちと共に「心の元氣」を育てていきたいですね。

（広島県P連副会長・広報委員 原 邦高）

フォーラムに参加しての全般的に感じたのは、道德教育に関して専門的な研究が保護者の思う以上に進んでいるということ。特に、児童・生徒自身の自己肯定感や自ら問題を解決する姿勢を育てるという点において、学校教育関係者の一生懸命さを知ることができました。また、個人的には「学校での道德教育を家庭でどのように展開していくか」について学びたいと思っていたのですが、PTAとの関わりの中で道德教育の展開という点では、学校教育が道德に取組む姿勢に比べて、地域や家庭の連携はまだまだ研究の余地があると感じました。

（広島県P連理事 赤木俊二）

道德教育への保護者の関わり

「道德の授業への参加や協力」「地域教材や人材などの提供」など、学校への積極的なかかわりを持たなければなりません。

一方、家庭においては、「礼儀、感謝や思いやりの気持ち、ルールを守るなどの規範意識を身につけさせる。」「子どもとの会話時間を大切に。」「手伝いをさせ、家族の一員として頑張った時はほめる。認める。」「子どもとの関わりを大切にしたいものです。」

（陽だまり第四十二号から抜粋）

「ほめる」と「認める」

「ほめる」とは「〇〇ができてすごいね」というように、ある行動、言動だけを取り上げて表現することが多く、そうすると表現していない外側、ほめられていない部分が生じます。

「認める」は、「とても素敵だね」「すごいね」「あなたがいてくれてよかった」など、一部だけでなく、その子の存在すべてを認めて表現することが多いようです。

子どもたちの存在を「ありのまま」認め、いろいろなタイミングで、いろいろな角度からほめることが大切です。

（全国研究大会長崎大会六分科会資料）

広報委員紹介

- 小川 剛司（大竹市） 山田 千絵（山県郡）
- 原 邦高（三原市） 中村 和美（東広島市）
- 上野 博士（府中市） 梶田 美貴（三次市）

今年には六名の委員が担当しています。事業報告以外にも、PTA役員会で話題にしたり、親子での会話ができるような内容を盛り込んだ紙面づくりをしたいと思います。

（小川委員長）

充実の補償で
お子様を
サポートします

●誤って他人のものを壊したり、他人にケガをさせてしまったら…
（加害事故の補償）

インターンシップ（職場体験）やアルバイトに起因する法律上の賠償責任も対象となります。

●授業中やクラブ活動など、校内外を問わず発生する急激かつ偶然な外来の事故によるケガや病気*の補償

*病気入院補償はHプラン・Wプランのみ対象です。



団体割引適用で
割安な保険料！

団体割引25%
損害率による割引30%適用
スクールメディカルデスク24でお子様の健康相談を24時間受付

●学校管理下中の学用品・身の回り品などの補償
●育英費用等

充実の補償でお子様をサポートします。

広島県PTA連合会
小・中学生総合保障制度



小・中学生総合保障制度はこども総合保険のペットネームです。この広告は「広島県PTA連合会小・中学生総合保障制度」の概要について紹介したものです。保険の内容はパンフレットをご覧ください。ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読み下さい。詳細は契約者である団体の代表者の方にお渡ししてあります保険約款によりますが、ご不明な点がございましたら取扱代理店・引受保険会社までお問合せください。この保険契約は、以下の保険会社による共同保険契約であり、東京海上日動火災保険が他の引受保険会社の代理・代行を行います。各引受保険会社は、契約締結時に決定する引受割合に応じて、連帯することなく単独個別に保険契約上の責任を負います。なお、引受割合につきましては、団体窓口にご確認ください。平成27年6月作成 募文No15-T00930



引受幹事保険会社

東京海上日動火災保険株式会社

お問合せ先・取扱代理店：(株)東海日動パートナーズ中国四国 TEL：0120-018-217
保険会社：東京海上日動火災保険株式会社 広島支店 広島中央支社 TEL：082-511-9194

パンフレット・重要事項説明書は左記「お問合せ先」にご請求下さい。

共同引受保険会社

あいおいニッセイ同和損保

M&A D INSURANCE GROUP